

合併号 特集

エヌディージー SDGsで広がる 中小企業の成長戦略



コロナ禍で人々の価値観が変わり、持続可能な社会の実現に向けた動きが潮流となりつつあります。このような中で、経済界で注目を集めるキーワードが、「SDGs」です。今回は中小企業のSDGsの促進に多くの取り組んでいる村尾隆介氏に、SDGsの必要性と、中小企業が取り組む意義について伺いました。

SDGsへの企業の取り組みが求められている



ブランド戦略コンサルタント

村尾 隆介

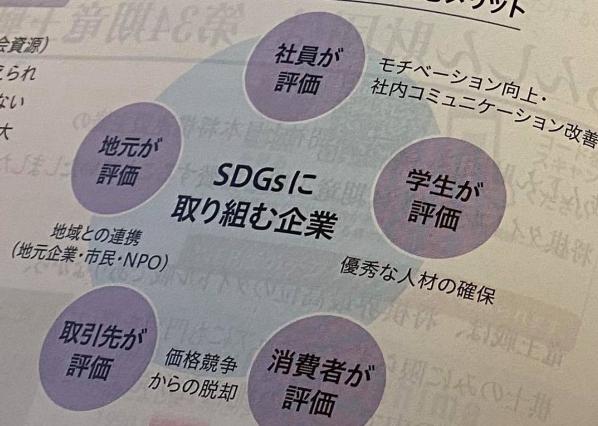
小さな会社のブランド戦略の専門家。中小企業のブランド戦略チームを起こしたブランディングの第一人者。企業だけでなく自治体ブランディングも手がける。企業CMの脚本・演出家としても多くの映像作品を生み出している。「今日からできる! 小さな会社のSDGs」(青春出版社)など著書多数。

SDGsとは「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略称です。2030年までに持続可能なよりよい世界を実現する「世界共通の目標」として、2015年の国連総会で採択されました。具体的には経済、社会、環境にかかる分野で「貧困をなくそう」「ジェンダー平等を実現しよう」「気候変動に具体的な対策を」「など17の目標(ゴール)が設定されています。(下のロゴ参照)、世界的に取り組みが進められています。

その背景には気候変動、格差の拡大など、世界に共通する問題への危機意識の高まりがあります。日本でも2050年までの脱炭素実現、労働人口減少などの課題があり、SDGsへの流れは加速していくでしょう。

SDGsは中小企業の企業価値を高めるチャンス!

中小企業がSDGsに取り組むメリット



- 企業イメージのさらなる向上
- 事業の安定・拡充
- 新規事業への挑戦
- 企業間コラボレーション

業にとってSDGsは、経営資源(自然、人的資源、社会資源)持続的に成長、発展するための戦略の一つと考えられます。今後、SDGsは社会貢献の一つとして欠かせないとともに、「中小企業にとって企業価値を高める大

くなる」と村尾氏は指摘します。的な面では、いまの学生はSDGsに積極的な評価するため、多様な人材確保につながりながらもSDGsへの対応が求められるように近年はSDGsに取り組む企業を支持し、企業価値が高まることが安売り競争の期待できます。SDGsの活動に社会に貢献することで一体感があります。

とで、社員が人間的に成長する。このようにSDGsをもたらすのです。

SDGsに取り組むための5つのステップ



中小企業の強みは、社長がイニシアチブをとって自ら語りかけることで社員のコンセンサスを得ること。

具体的にどのように社内で検討し、取り組んでいけばいいのか、ステップごとに主なポイントをまとめました。

Step 1 SDGsを理解する

SDGsとは何か、中小企業でSDGsへの取り組みがなぜ必要なのか、勉強会を開きましょう。

Step 2 優先課題を決定する

事業内容や地域における課題をSDGsとひも付け、17の目標から取り組む課題を決めましょう。

Step 3 目標を設定する

何を取り組むのかを検討し、活動の目的、内容、目標、担当部署を決め、行動計画を作成しましょう。

Step 4 経営的な視点で検討する

活動によるメリットを検討するとともに、会社内の行動に矛盾がないかをチェックしましょう。

Step 5 社会に向けて効果的に情報発信する

SNSで発信するなど、地域や取引先に向けた効果的な情報発信の方法を検討しましょう。

- 経営者をはじめ、社員全員で、SDGsは企業活動を行なう意味を持つのか、自社の経営理念と照らし合わせなさい。
- 17の目標のロゴを社内に掲示するのもおすすめ。社員の関心や興味を高めることに役立ちます。

- 「事業で社会に迷惑をかけてはいないか」「貧困、教育など課題に貢献できないか」など、まずは足元の課題に着目する。
- 旅でお世話になった国からの留学生を支援するなど、個人的エピソードが出発点でも構いません。

- 例えば「安全な水を供給するため、途上国に井戸を掘る活動」など、17の目標をフレイクダウンした169のターゲットも参考にしながら目標を設定しましょう。
- 11月の「オレンジリボン運動」(子どもの虐待防止)、2月の「運動」(いじめ反対)など、既存の社会運動を目標にしてもシンボルカラーを社員全員が身に着けることでも運動への

- 「ジェンダー平等」をうたっているのに会社内でハラートーングのイベントを行なうためにゴミが出ていたり、環境保護のイベントを行なうために残業が増えるなど、プランに矛盾がないかをチェックしましょう。
- 社内での共感を生み出せるよう、活動内容について社員同士で意見交換をしましょう。

- SDGsの活動を開始したら、社会に向けた定期的な情報発信が大切です。SDGsに取り組む社会的責任感が大変です。
- 社員や地域に活動を浸透させるにはネーミングもしくはSNSで発信するなど、効果的な情報発信の方法を検討しましょう。
- シンボルカラーを社員全員が身に着けることでも運動への

もっと知りたいSDGs / Q&A

Q 17の目標はどう決められた?

A. 17の目標の下には、さらに詳細な169のターゲットがあります。これらは国連が数年をかけて世界中でヒアリングし、およそ1,000万人にオンライン調査をしてまとめられたものです。

Q CSRとSDGsの違いは?

A. CSRは企業が独自に取り組む社会・環境的貢献活動を意味します。SDGsは持続可能な開発ができるることを目指して国連が定めた世界共通の目標で、企業だけでなく自治体、各種機関・団体から個人まで、誰もが取り組むことができます。

Q SDGsに取り組むにあたり、資格は必要ですか?

A. 特別な資格はありません。ISOのように申請も不要です。誰でも、自由にSDGsに取り組むことができます。

Q 日本が特に力を入れるべき課題はありますか?

A. 2020年のSDGs達成度世界ランキング、「ジェンダー平等」「化石燃料の代替」「正な資金の流れ」など、多くの課題があります。

中小企業のSDGs 取組み事例

CASE 1 地元の海を守る、定期的なビーチクリーン活動「ワンダフル CHITAJ」

株式会社ワンダフルライフ（愛媛県東温市） 業種・事業内容：美容商材販売、美容室経営 従業員数：7名

取組みの背景とプロセス

アサロンの経営者と美容商材の卸販する同社。「地域社会に貢献したい」という想いを発見点に、「アサロンでは大量に水を使用して環境に負荷をかけている。水に親しみ育む貢献をしよう」と考えた。地元の船多半島の海は「水が汚い海水浴場」というランキング2020で7位に入っていたことから、ビーチクリーン活動を行なう取組みを2020年に始めた。

具体的な活動と成果

社員とその家族で行なった海岸のゴミ拾い活動を、2021年からは「ワンダフルCHITAJ」と名付けリニューアル。一般市民にも参加を募り、今後は楽ししながらビーチクリーン活動に参加できるイベントを展開していく予定。イベントはチラシで告知するほか、フェイスブックの「Wonderful CHITAJ」というアカウントでも活動内容を紹介している。周辺はこの活動以外にも、SDGsにまつわるさまざまな活動を行なっており、これらの活動を通じて社員の一体感が強まっているほか、地域への感謝の気持ちや連帯感が芽生えている。

(左)「ワンダフルCHITAJ」の告知のチラシ。(上)子どもたちに海を守ることの大切さを伝える絵本も作成。(下)ビーチクリーン活動用におそろいのジャケットを用意。テント、参加賞品などもすべてチーター柄(知多半島の動物と触れ合う時間を設け、子どもたちも楽しめる活動に)。

CASE 2 使わなくなったランドセルを必要とする子どもたちへ贈る「ランドセルFOR ALL」

流通株式会社（鳥取県倉吉市） 業種・事業内容：運送事業 従業員数：110名（パート・アルバイト49名含む）

取組みの背景とプロセス

運送業を中心に行なう中で、使わなくなったランドセルが多くて放置されていることに気付いた。そこで2020年、経済的理由などでランドセルを購入できない子どもたちのために「ランドセルFOR ALL」を発案した。

具体的な活動と成果

県内4ヵ所にある同社の事業所や協力施設10ヵ所以上に回収ボックスを設置し、SNSなどでもランドセルの寄付を呼びかけたところ、約200個のランドセルが集まった。渡先の募集もを行い、鳥取県内や近県に暮らす外国人家庭に贈ることに。社員がメンテナンスしてきれいにした後、倉庫で数回の譲渡会を実施し、子どもたち自身が実際に好きなランドセルを選んだ。「ランドセルFOR ALL」は紙などのメディアでもたびたび紹介され、大きな反響を得た。

(上)譲渡会で子どもとその家族と一緒に。ランドセルには譲った人からのメッセージが書かれたタグが付けられ、子どもたちが書いたサンキューカードはランドセルを譲った人に届けられた。(左)活動が地方紙に取り上げられ、会社の知名度も大きく上がった。

CASE 3 働きがいのある会社を目指し、社員をたたえる「アワードセレモニー」

八光建設株式会社（福島県郡山市） 業種・事業内容：総合建設業 従業員数：50名

取組みの背景とプロセス

同社の社員は、現場へ直行直帰で働くスタイルのため、社員が直接会社から評価される機会が少ない。そこで同社は、2018年に社員を表彰する「アワードセレモニー」を年1回開催することに決めた。

具体的な活動と成果

社内に運営委員会をつくり、賞の設定から開始。職場環境をよくしている後輩の面倒をよく見ている、といった数値化されない貢献にも光を当て、総務や経理などの女性社員の貢献をたたえる賞もつくった。受賞者は社員の推薦で決定。セレモニーでは推薦者がプレゼンターを務め、表彰理由を読み上げるかたちにしたところ、会場は予想を超える感動に包まれた。セレモニーを開催することによって社員のやる気や結束力が向上した。

その後も返済不要の奨学金を支給する「フューチャーフクシマ奨学金」など、次々と新しい活動を立ち上げ、2021年には郡山市がSDGs達成に向けた取組みを表彰する「こおりやまSDGsアワード」を受賞。地方紙などの報道も増え、営業による影響が出ている。

SDGsは中小企業こそ取り組むべき未来へのアクション

日本におけるSDGs認知度は2021年1月時点で、約5割^{*}。2030年までの目標実現に向け、法人、個人のいずれも一日も早く認知・理解から行動に移ることが求められています。

私はこれまで多くの企業のSDGsへの取組みを支援してきましたが、今回ご紹介した3事例は、中小企業でありながらそれぞれに時間・コスト・エネルギーをかけ、オリジナリティあるSDGsの活動で成果を上げています。その行動力は周囲の関連会社や同業他社を刺激し、「社会を変える力」になっているのです。

SDGsの活動は最初は真似で構いません。一人ひとり、

「はたらく×らいふプロジェクト」でもSDGs取組み事例

17の目標のうち日本で特に取組みが求められている「ジェンダー平等を実現しよう」に取り組んでいます。ぜひ今後ご紹介していきます。

※電通「第4回 SDGsに関する生活者調査」(調査期間2020年1月)

HOGO+10 A PROJECT OF HAICHO

「アワードセレモニー」は年1回の恒例行事です。セレモニーに招いた協力会社の社員も、自社でもアワードセレモニーを行うよ周囲も巻き込みながらSDGsの活動を広げます。